

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4570201063		
法人名	有限会社ケアハウスぬくもりの里		
事業所名	グループホームぬくもりの里		
所在地	宮崎県都城市五十町2394-5 (電話) 0986-22-5859		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年3月12日	評価確定日	平成21年4月24日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市内の閑静な住宅街と、小・中・高校が周囲のほど近い場所にあり、ホームの周辺道路は通学路となっている。地域住民と触れ合う機会も多く、ホームは地域の環境になじんでいる。ホーム開設については、代表者の熱い思いが「家庭的な雰囲気を大切にしたい」という理念として、利用者支援に生かされている。

【重点項目への取組状況】

【情報提供票より】 (平成21年2月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年6月13日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤7人, 非常勤11人, 常勤換算9.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年2月20日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	0
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 87.6歳	最低 82歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人浩盛会野辺医院
---------	-------------

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や自己評価については、全職員の意識がやや不十分であるが、職員研修については内・外部とも計画的に実施されている。介護計画はプランの見直しや評価が短期間のスパンでされていない。日常的な外出は臨機応変にできており、災害対策の取り組みや居室の工夫も改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は代表者や管理者等の管理職が主に担当し、他の職員の意見を聞いたりしていない。しかし、自己評価等についての意識を高めるための方法として、勉強会をするなどの取り組みはなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月ごとの会議では、外部評価の結果報告やホーム運営についての意見などが出されている。また、委員は地域代表者や家族代表者、行政職員などの参加があり、特に職員研修の内容やボランティア受け入れ等についての検討がなされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>これまで特に家族等からの意見や苦情等はなく、日ごろのコミュニケーションや家族への綿密な報告などで、ホームや職員との信頼関係の構築がなされている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周辺には小・中・高校があり、児童生徒との交流は日常的に行われている。また、地域の子ども会や高齢者クラブとの行事的交流も積極的に行われている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	わかりやすく5つの理念が個条書きになっており、家庭的な雰囲気の中で利用者の支援ができるための理念になっている。また、代表者の思いも理念の中に十分に盛り込まれたものになっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念に沿った支援ができるように、職員同士で話し合ったり確認しあいながら日々取り組む姿勢ができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは小・中学校や高校などに囲まれた場所にあり、日ごろから地域住民や子ども会との付き合いもできており、利用者は学校のマラソン大会などを応援したり、ふれあいの時間も取れている。また、高齢者クラブとの交流もできています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容や外部評価の意義について、他の職員の意識がやや乏しいため、内部研修会を開くなどの取り組みをしているが、全職員が統一した意識の中で理解しているとはいえない。	○	外部評価に対する意義や、自己評価項目の確認など、全職員が統一した意識を持っていることが望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとの会議中で、ホーム運営に係ることや、外部評価の報告や委員からの意見もあり、十分にホーム運営に会議を生かした取り組みがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの代表者は運営のことについて、そして管理者は利用者支援のことについて、それぞれの立場で、行政担当者等との連絡調整を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日常生活の報告については、家族来訪の際に日誌や記録等を見ただきながら報告がなされ、緊急性のある場合には随時電話等で報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から直接的な意見や苦情等はこれまでにない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどなく、職員も生きがいと楽しみを持って仕事ができおり、定着率もよい。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修とも研修計画を立てて、しっかりできている。協力医の指導による研修なども取り入れ、職員全員が参加できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは地区のグループホーム連絡協議会を通して定期的に交流している。また、他のグループホームとも職員同士の交流研修を実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や体験利用をしてもらっている。また、十分な説明をしたうえで納得して利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶことも多く、利用者の支援の中で共に過ごす喜びを感じ、楽しみを共有する喜びを感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務中であっても、利用者一人ひとりの意向に沿って支援するようにしている。帰宅願望のある方にも、本人が納得するまで付き添うなど、寄り添うケアができています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当職員がプラン変更のための情報提供を行ったり、担当者会議にも参加しながら、介護支援専門員と共同し、プランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価や見直しは3か月ごとに行い、介護計画の更新は1年に1回行っている。	○	利用者の支援方法の見直しや状態に即した介護計画の策定は、変化のつど行うとともに、定期的にはできるだけ、評価や見直しは毎月、そして介護計画の見直しは3か月ごとに行ってほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	随時地域住民からの介護相談等を受け付けており、また、緊急性のある外泊なども受け入れるなど、地域の実情に沿った支援ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医や協力医との連携をとり、適切に利用者の健康管理ができるような体制ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応や終末期の対応については、協力医の指導により、職員の知識や意識の向上が図られている。しかし、ホームの方針としては日常的医療行為を必要とする場合には、医療機関での対応にすることを方針としている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の声かけや対応は、利用者の尊厳を害することなく、さりげない対応ができています。また、利用者個人の台帳なども適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個別支援の中で、利用者一人ひとりの意向や毎日異なる生活日課に、職員が合わせながら寄り添う支援ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけができる利用者と職員は一緒に作業を行い、一緒に食べながら、楽しい時間を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状況やその日によって異なる希望に応じて、入浴時間を設定するように臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は可能な限り、茶わん洗いや洗濯物の整理などの役割を持ち、楽しみの中で生活できるための支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出や散歩はその日に応じて随時行っており、時折買い物などの外出も行っている。また、季節行事として計画的な外出支援もできている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵をしないことを原則としており、職員も鍵をしない支援を意識している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な災害対策訓練を行い、住宅街でもあり、近隣住民への声かけなどを日常的に行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が利用者の好みを聞いて作成し、利用者によっては主治医の指示に沿って提供している。また、今後は非常勤の栄養士の指導を受けるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共用空間は、家庭的な雰囲気もあり、利用者一人ひとりが心地よく過ごせるように、食堂や居間のいす、テーブルの配置に配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれ個性があり、使い慣れたものが持ち込まれ、ゆったり過ごせるような居心地よい作りになっている。		

※  は、重点項目。